

令和 8 年度 1-①

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 一資料・情報提供機能

○評価項目 ① 貸出と閲覧サービスの充実

自己評価	C
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	C
	B
	B
	C
	B

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：人口一人当たりの貸出冊数(たちばな号含む)	選書、PR の工夫	5.00	4.61
イ：予約数	PR の工夫	35,000	36,464
ウ：大活字本、点字資料、LL ブック等の受入冊数	積極的な選書	60	93
エ：外国語書籍の受入冊数	積極的な選書	60	59
オ：実利用者数	選書の工夫	10,900	6,949
カ：新規利用登録者数	選書、PR の工夫	1,250	1,435
キ：利用者アンケート 9-②の平均(読みたい本)	選書の工夫	3.6	3.3
ク：資料受入冊数	予算の確保、適切な選書	10,500	9,390
ケ：たちばな号の利用者数	ステーションの位置検討	4,000	3,826
コ：たちばな号の貸出冊数	選書の工夫	27,000	21,610

○取組予定

利用者の増加や満足度の向上につながるよう、各種資料の充実およびテーマ展・おはなし会などの企画の充実のほか、図書館に関する広報に努める。

読書バリアフリー実現のための資料の充実を図るとともに、その活用環境の整備、促進に努める。

○取組結果

10 項目中 3 項目の目標達成となったので C 評価とした。また国民スポーツ大会および障害者スポーツ大会（以下「国スポ・障スポ」と言う。）の影響により金亀公園駐車場が一般車両使用不可の期間があり、その間休館となったことが目標未達の要因になっている。（令和 7 年度開館日数 262 日、令和 6 年度開館日数 276 日。）

主な目標達成項目

- ・大活字本、点字資料、LL ブック等の受入冊数については、特に LL ブックは新刊発行のタイミングで選書を積極的に行うことができた。
- ・予約数については、目標を達成しているものの、前年比△4,000 件となっており、国スポ・障スポ開催による休館日の増加の影響を受けた。

主な目標未達成項目

- ・人口一人当たりの貸出冊数については、国スポ・障スポ開催による休館日の増加の影響を受け、目標値および前年値よりも低い結果となった。
- ・実利用者数について、昨年度 10 月に図書館システムを入れ替えたことにより、10 月以降の実利用者しか把握できていない。
- ・利用者アンケートの平均については、目標値および前年値を下回っている。要因として考えられるのはアンケート回答数が令和 7 年度 286 件、令和 6 年度 397 件と前年比△110 件となっておりアンケート回答数の減少が数値に影響したと推察している。
- ・たちばな号の利用者数、貸出冊数については、一定の利用者には利用していただいているが、実績値は目標値を下回る結果となった。
また、システム更新後は、たちばな号の利用者数、貸出冊数に web からの延長数を含めなくなったことも影響した。

○成果と課題

- ・外的要因に左右される評価項目について、職員の努力のみでは改善につなげづらいものもあるが、積極的な選書や、選書の工夫で目標達成が可能な項目については、職員に対し評価項目を再度周知し、目標達成に向けて業務遂行するよう促す。
- ・たちばな号の利用状況については、(仮称)図書館中部館整備後には市内北部地域、中部地域が充足することも念頭に置きながら、ステーションの見直しや、利用の促進等を検討する必要がある。

■図書館協議会からの意見

- ・たちばな号利用者の活用状況を調査し、今後の取組につなげていく必要がある。
- ・システム更新前の令和 7 年 4 月から 9 月迄の実利用者数の記録はないか？
- ・システム更新後のたちばな号に関する利用者数や貸出冊数等の記録もないか？
上記の正確なデータが分かれば、評価は「B」となる可能性があると思う。
- ・大活字本や外国語書籍などが、ほぼ目標に達しているのがよいと思う。また、その活用数も知りたい。
- ・実利用者数のように達成率が低いものがあつたものの、これもシステム上の原因が大きく実態が把握できていない項目であり、それ以外の目標未達の評価指標についてもほとんどが 90%以上、全て 80%以上の達成率であり、「想定以下の成果」というほどではないと感じた。
人口一人当たりの貸出冊数について、コロナ後の回復から減少傾向なのは気になりますが、国スポ障スポの影響という事がはっきりしているのであれば、そこまで問題ではないかと思う。
- ・実利用者数の落ち込みが大き過ぎる。図書館運営もほぼ平常に戻る中、減少の原因はきっちり分析して欲しい。
- ・資料受入冊数の経年減少は、“魅力ある図書館”への失望感の現れではないか。
- ・たちばな号の利用はほぼ一定しているものの、貸出冊数減も資料受入冊数の経年減少によるものではないか。
- ・資料収集に関してなど、B 評価と思われますが、やはり利用面での数値減少、また統計数値が正しくとれていない項目があることなどからみて、評価は C とした。

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 一資料・情報提供機能

○評価項目 ② レファレンスサービスの充実

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	B
	B
	B
	B
	A

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：レファレンスサービスの件数	PR の工夫	242	266
イ：職員研修の実施回数	職員研修の充実	11	9
ウ：外部研修(県立図書館等主催を含む)の参加者数(延べ人数)	各種研修への積極的な参加	20	26

○取組予定

レファレンスはその場で行い、時間を要するものは改めて回答するなど工夫しながら対応する。

職員研修は、休館日を利用して実施する。

外部研修への参加者数は予算と人員配置の制約もあるため、可能な範囲で参加者数を維持し、自己研鑽および伝達研修を行うよう取り組む。

○取組結果

- ・レファレンスサービスの件数は、目標値を達成することができた。
- ・外部研修への参加は、限られた予算の中、WEB 研修に複数の職員が受講するなど、工夫しながら積極的に参加した。
- ・職員研修については、目標値にわずかに届かなかった。

○成果と課題

- ・様々なレファレンスに対応できるように、レファレンスツールの整備や資料の充実に努める。
- ・毎月第 4 木曜日の休館日を利用し、職員研修を実施している。引き続き職員のスキルアップを図るために内容も工夫しながら研修の充実に努めていく。
- ・外部研修については、WEB 研修と通常通りの研修の併用が増加していることから、こうした機会を積極的に活用し、職員のスキルアップに繋げていく。

■図書館協議会からの意見

- ・意見抜粋の内容から、職員の皆さんが利用者への対応を丁寧に行っていることが伝わってくる。今後もスキルアップにつながる質のよい研修を実施されたい。
- ・ほぼすべてが目標値に達しているのがよい。更なる取組を期待する。

- ・ 職員研修及び外部研修に対する積極的な姿勢は評価したい。
- ・ 外部研修について、安易に WEB 研修に頼る事なく、対面での通常の研修参加を心がけて欲しい。
- ・ 職員の皆さんの日々の姿勢による成果だと感じる。利用者の方から多様な要求を引き出し、それによってスキルアップを目指すとともに研修やレファレンスツールを整備することによって、館としての機能を高めていって欲しいと思う。

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 一資料・情報提供機能
○評価項目 ③ 暮らしに役立つ情報の提供

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	B
	C
	B
	B
	B

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：テーマ展示の実施回数	PR の工夫・展示コーナーの充実	43	46
イ：中高生の利用者数(実利用者数)	魅力的なテーマ展示の実施	640	281

○取組予定

テーマ展示実施回数は、テーマに即した展示期間を設定しながら開催する。
中高生の利用者数は、中高生にとって魅力ある図書の受入れや展示方法の工夫などを行う。

○取組結果

- ・テーマ展示は、新たな取組として、「雑誌スポンサー制度」の PR 展示を実施し、雑誌スポンサー企業に関連のある図書の展示、また、企業からおすすめの本を紹介していただいた。
また、他課との連携展示も増えた。
- ・中高生の利用者数は、実利用者数と同様の理由で少なくなっている。

○成果と課題

- ・今後も時節を捉えたテーマ展示の充実や、他課と連携など、来館につながる特設展示の工夫を検討していく。
- ・中高生の利用に繋げていくために、時代のニーズや若者世代の実情を踏まえ、本に興味、関心を持ってもらえるよう、YA コーナーなどの充実や選書に工夫を凝らし、魅力ある蔵書構成に努める。

■図書館協議会からの意見

- ・中高生の利用者数は、自習スペースの有無に関わっていると思う。
- ・中高生の利用については、学校図書館の利用状況も知りたいが、学校図書館にはない魅力をつくる事が必須だと思われる。
- ・実利用者数が、全年齢層の下げ幅より大きいのは、普段の中高生の利用が夏休みに集中する、あるいは学校からの集団利用などがシステム更新の前であったなど、推察できる理由はあるか。

- ・テーマ展示の工夫、実施回数の増加などは、B 評価（あるいは A 評価）にしたいが、イの項目の落ち込み数が過去実績、目標値とあまりに大きすぎる。中高生の図書館利用増に向けて、各学校との連携もさぐるべきではないか。
- ・中高生の実利用者数がきちんと把握できていないのが残念だが、展示については回数も目標を上回り、紙でのアンケート結果では利用している人の半数以上が「満足」「やや満足」となっているので B とした。ただ電子のアンケート結果が紙とは異なっているのが気になった。中高生も含めて利用者のニーズを的確に把握し、利用者のニーズを引き出す展示が行われることを望む。
- ・新刊でなくても旧刊でもテーマを決めてアピール出来るとよい。

基本方針 1 本との出会いを通して、市民の課題解決を支援する図書館 一資料・情報提供機能
○評価項目 ④ インターネットによる情報の発信

自己評価	C
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	B
	C
	B
	B
	C

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：お知らせ、行事案内のホームページ掲載回数	積極的な情報発信	120	91
イ：広報紙の掲載回数	積極的な情報発信	25	27
ウ：報道機関情報提供の回数	積極的な情報発信	20	17

○取組予定

ホームページについては、市民が知りたい情報や来館につながる情報をタイムリーに提供するようにする。

広報ひこね等へ行事案内などの掲載に努める。

報道機関へは、広く市民に周知したい情報の積極的な提供に努める。

○取組結果

- ・お知らせ、行事案内などを紹介するホームページ掲載回数については、目標値を下回ったものの前年値から 8 件の増加となった。
- ・広報紙への掲載は、たちばな号の運行、図書館でのおはなし会、舟橋聖一顕彰青年文学賞など、ホームページを見られない方に対しても、お知らせすることに努めた。

○成果と課題

- ・広報紙への掲載、報道機関への情報提供、ホームページの掲載などを通じて、図書館に関する情報の迅速な情報提供に努める、また特に PR したいことや話題性のあるものについては彦根市ラインによる情報提供も実施する。
- ・ホームページは見やすく、親しみやすいものとなるよう引き続き検討・工夫をしていく。

■図書館協議会からの意見

- ・ほとんどの人が情報端末を所有し、活用しているので、HP への掲載は 100%を期すべきと思う。
- ・ホームページ、広報紙などの掲載は、以前に比べると目にする事が増えたと思う。評価指数「ア」91、「イ」27 という数値は良い数と思う。

- ・ 自館のホームページへの掲載という、ある程度自身で調整が可能な項目での未達（しかも80%以下）は工夫のしようがあつたのでは、とも思うが、「想定以下の成果」という程であるのかは判断がつきかねる。
- ・ 広報「ひこね」に掲載される多くはたちばな号の運行、行事案内など情報発信と言えるものになっていない。全戸配布の広報の波及効果をもっと活用すべきではないか。
- ・ ホームページの充実はとても重要なことと思うが、それとともに様々な年代、環境にある人々に向けて、様々な方法での発信を模索していくことも大切と考える。

令和 8 年度 2-①

基本方針 2 歴史あるまちとして、郷土の文化を守り伝える図書館 一資料収集・保存・支援機能

○評価項目 ① 資料収集・受入・整理

自己評価	A
------	---

外部評価	A
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	A
	A
	A
	A
	C
	A
	A
	A

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：郷土資料の受入冊数	適切な選書	320	372

○取組予定

郷土に関する資料の選書や受入れを行う。

○取組結果

・郷土資料の積極的な購入と寄贈資料の受入により、受入冊数が、目標値を上回った。

○成果と課題

・郷土に関する資料の購入や寄贈による受入を今後も積極的に行う。併せて、保存・管理についても、次代に繋がる対応を図っていく必要がある。

■図書館協議会からの意見

- ・〈成果と課題〉に記入されている様に、どんどん蓄積されていく郷土資料などの保守管理、データ化が大切な事だと思う。
- ・そもそもの刊行点数、複本冊数などの要因もあることから、評価が難しい指標であると感じる。マークデータが無いものも多いであろう郷土資料の積極的な受入については評価しつつも、令和 3 年度以降一番低い冊数であることにも触れても良かった。
- ・今後も収集に努められるとともに、利用に繋がる保存・整備管理に努めていただきたい。
- ・アピールが少ない。

基本方針 2 歴史あるまちとして、郷土の文化を守り伝える図書館 一資料収集・保存・支援機能

○評価項目 ② 資料の保存・活用

自己評価	C
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	C
	B
	C
	B
	B
	C

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：資料の展示・公開回数	資料の整理	3	3
イ：古文書・貴重資料の調査・研究の対応回数	職員研修の充実	59	31
ウ：舟橋聖一顕彰青年文学賞の応募数	PR の工夫	45	38

○取組予定

資料展示を行うために、所蔵資料の整理を進めるとともに、専門的な知識を有する文化財課職員との連携を図る。

舟橋聖一顕彰青年文学賞への応募数の増加を図るため、従来の広報のほか、市公式 X や応募期間に合わせたテーマ展の開催など、広報の方法をひろげる。

○取組結果

- ・ 故舟橋聖一氏の顕彰を図るため、舟橋聖一記念文庫前のカウンターに展示ケースを設置し、舟橋氏に所縁のある資料の常設展示を行った。
- ・ 古文書・貴重資料の調査・研究の対応回数の減少は、所蔵資料の閲覧等の申請者が少なかったことによる。
- ・ 舟橋聖一顕彰青年文学賞の応募数は、電子申請による受付や、SNS 等を活用し PR に努めるなど、可能な限り応募数を増やすための取組みを行ったが、目標には至らなかった。

○成果と課題

- ・ 資料の展示、公開には、その前提として、資料の整理と適切な保存管理が必要である。改訂後の「彦根市図書館整備基本計画」に基づき、現図書館を図書館サービスの提供と歴史・郷土資料館的機能を併せ持った施設として、整備していく必要がある。令和 7 年度は舟橋聖一氏の資料（パネル等）の整理を行った。
- ・ 舟橋聖一顕彰青年文学賞の応募数については、引き続き効果的な広報に努める。また、名誉市民である故舟橋聖一氏の功績を広く周知するための新たな取組みを検討する。

■図書館協議会からの意見

- ・目標値には至らない項目があるものの、資料の保存・活用に努めておられることがわかる。さらなる一手が必要か。
- ・評価指標（イ）の減少は、閲覧申請者数に依存するので仕方がない。
- ・評価指数（ウ）の減少は、“生成 AI 使用不可”と応募規定に明記されているので、予想された結果か？
- ・舟橋聖一顕彰の事を更に周知してもらう為の具体的な方法について知りたいと思う。
- ・成果があった、として良いものかは悩んだが、そもそもの評価指数が外部要因によるものが大きいため、単純に成果が無いとまで言い切れないと感じ、Bとした。
- ・どのような貴重な資料が保存・管理されているのか、市民の関心を引き寄せる工夫が欲しい。
- ・取組予定にある「文化財課職員との連携」はどうだったのでしょうか。このことは今後とも重要なことであると考えます。

基本方針 3 子どもの健やかな成長と豊かな心を育てる図書館 ー学びの場の提供

○評価項目 ① 子どもの読書活動の推進

自己評価	C
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	B
	C
	B
	C
	C

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：学校への団体貸し出し数(小・中・高)	学校への PR、貸し出しリストの作成	1,630	1,453
イ：読み聞かせ、ブックトークの参加者数	実施の検討・準備	320	485
ウ：未就学児の登録者数(6 歳以下)	啓発活動の推進	720	651

○取組予定

学校と協議を行う機会などを捉え、団体貸出の積極的な活用を促す。
 館内やホームページ等での開催案内を行う。
 読み聞かせ会などの機会を捉え、登録者数の増加に努める。

○取組結果

- ・学校への団体貸出数の実績については、団体貸出を行う学校の利用が若干減少していることから、利用冊数の減少となっている。
- ・読み聞かせ、ブックトークの参加者数については、年 30 回開催、参加者数平均約 16 名で前年値も上回った。
- ・少子化の影響も考えられるが、未就学児の登録者数が、減少していつている。

○成果と課題

- ・読み聞かせなどの際は館内放送、お子様連れの利用者への直接の声掛け、開催回数を増やすなどボランティア団体とも連携しながら積極的な運営を実施した。
- ・図書館だよりを発行し、児童行事のお知らせや新刊案内など、来館につながる情報発信を行った。
- ・少子化が進む中、各項目について適正な目標数値を設定する必要がある。

■図書館協議会からの意見

- ・授業や、学級文庫、調べ学習、読書活動等のためにまとめて貸し出しできることを図書館教育部会や校長会でも積極的に呼びかけていく。学校代表として、もっとできることがあったと反省している。

- ・少子化の中、未就学児の登録は減少しているが、多くの子どもが館に通う姿をよく目にするが、子どもだけで図書館に行ける子どもの人数はとても少ない。身近に図書館があるのがベストと考える。

学校図書館の蔵書も多く、手狭になり、図書管理なども充分ではないように思われ、図書館から貸し出しをしてもらう事が難しいのではないかなと思う。

- ・評価指標「ア」も昨年度より増加しており、「イ」は令和3年度以降で最も多い。「ウ」は課題にもある通り、そもそもの未就学児の数の推移が分からないため、単純な評価ができないと思った。（実数が減っても登録率は変わらない、もしくは増えているという事もあるかなと思う。）そのため想定以下の成果とまでは言えないと思う。
- ・図書館の利用者数の中で、小学生以下の利用割合は、どの図書館でも大きい。その利用割合、ジャンル別の本の数等も公表すべきだと思う。（毎年発行されてきた図書館要覧に掲載されていたと思うが。）
- ・子どもの人口の推移を把握できないが、少子化、学級数の減少などがあるとすれば、ア、ウの数値は目標には達していなくてもB評価でよいのではと思う。
- ・個々には利用者が常にある「子ども読書通帳」などとてもよいと思う。読み聞かせ、ブックトークなど低年齢を対象にしていますが、家族連れだけでなく、大人個人としても参加してもらえるように工夫したい。

基本方針 3 子どもの健やかな成長と豊かな心を育てる図書館 一学びの場の提供

○評価項目 ② 子育て関係機関・団体との連携

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	B
	B
	B
	A
	B
	B

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：読み聞かせ参加ボランティア人数(延べ人数)	ボランティアの支援	100	106
イ：乳幼児と保護者への読書啓発(健診等での啓発資料配布人数)	啓発活動の推進	680	636

○取組予定

読み聞かせボランティアとの連携、支援により、読書推進に努める。
 乳幼児とその保護者に対し読み聞かせの大切さを伝える。

○取組結果

- ・ 評価項目 3 - ①-イ、読み聞かせ、ブックトークの参加者数とも連動し目標達成、市民団体の積極的な活動の結果と考えている。
- ・ くすのきセンターの 10 か月健康診査の実施日に、乳幼児と保護者全員に図書館の利用案内と読書啓発資料の配布を行った。しかし、少子化により、対象となる乳幼児が減少していることから、目標達成には至らなかった。

○成果と課題

- ・ 今後も読み聞かせボランティアとの協働を図る。
- ・ イ、について、少子化が進む中、適正な目標数値を設定する必要がある。

■図書館協議会からの意見

- ・ 子育て広場などで、図書館の情報を発信してみてもどうか。
- ・ 課題にあるように、指標の設定に問題があっただけであり、アは目標を上回り、イについても全員に配布できているのなら評価としては A で良いと思う。
- ・ 「ア」の数値が目標値を超えたことは素晴らしいと思う。
- ・ おはなしのつどい、絵本のつどいの 2 つの時間と場を頂いているが、今までと同じやり方で良いのか一度図書館とも検討したい。

基本方針 4 心のやすらぎを与える居心地の良い図書館 一滞在型図書館の機能

○評価項目 ① やすらぎのある図書館づくり

自己評価	C
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	C
	B
	B
	C
	B
	B
	B

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：利用者アンケート 9-③(居心地)の平均点	居心地の良い空間づくり	3.5	3.3
イ：利用者アンケート 9-④(職員の態度)の平均点	接遇の向上	4.4	4.3

○取組予定

- ・ 利用し易い環境づくりなどに努める。
- ・ 接遇の研修を行い、利用者満足度の高い対応ができるようにする。

○取組結果

- ・ 毎日、開館(10 時)までに、開架室の整理を行い、利用者が利用しやすい書棚となるよう努めた。
- ・ カウンターや電話での対応では、丁寧で正確な対応に努めた。
- ・ 時節に応じた図書、司書のおすすめ本のコーナー、壁面飾り、雑誌コーナーを整理し、ソファを設置するなど、居心地の良い図書館づくりに努めた。
- ・ 館内での各種お知らせやサインを、見やすく、分かりやすくすることに心がけた。
- ・ 1 - ① - キでも記載したとおり令和 7 年度はアンケートの回答数が少なく結果に影響が出たものと推察する。

○成果と課題

- ・ 開架室が利用者にとって図書を探しやすい書棚になるよう、取り組む。
- ・ 利用者の満足度を高めるため、より一層の CS 向上に取り組む。
- ・ アンケート回答数が年度により異なることから一定数の回答が得られるよう実施する。

■図書館協議会からの意見

- ・ 限られた環境設備の中で十分に取組んでおられる。丁寧な対応で利用者の満足度は高い。
- ・ 図書館員が親切に声をかけ、適切に対応される様子を多く見かける。以前に比べると、ソファなどすわる場が増えた。
 子どもスペースには親子で読める場が少なく、特に土曜日には来館者が多く、ゆっくり本に親しむ環境がないように思う。中庭のスペース利用は良いが、これから暑い毎日には課題がある。
- ・ いずれも達成率 90%台後半であり、C は厳しい評価と感じる。
- ・ 評価指標を利用者アンケートに限定されているが、そこから得られる知見を、なるべく中部館の

運営に生かして欲しい。

やすらぎのある図書館の構造になっていない現図書館でありながら、懸命に努力された結果の自己評価が「C」、期待を込めて「B」ぐらいにすべきではなかったか。展望が見えないではないか。

- ・限られた環境の中で職員の皆さんの姿勢・取り組み、またアンケート結果などからみて、数値は目標に達していなくともBでよいのではと思う。
- ・「やすらぎのある図書館」というと個々に求めるものが違うのでなかなか達成は出来ないと思う。

基本方針 4 心のやすらぎを与える居心地の良い図書館 一滞在型図書館の機能

○評価項目 ② 居場所としての図書館づくり

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	B
	C
	B
	B
	B

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：利用者アンケート 7(滞在時間)の平均	滞在時間が延びる工夫	32.6	32.6
イ：来館者数	魅力ある図書館づくり・利用者の開拓	163,000	151,079

○取組予定

テーマ展示の開催など館内に回遊性を持たせた開架スペースとするなど、ゆっくりと図書を選べる環境づくりに努める。

来館者数は、主催事業やテーマ展示の PR に努めるほか、資料の充実に努める。

○取組結果

- ・来館者数は、目標値を下回る結果となったが、開館日数が前年より 14 日少ない中の結果であり現状が大きく落ち込んでいる状況ではない。

○成果と課題

- ・企画展示やおはなし会を通して、利用者に関心を持っていただける本を紹介し、滞在時間の確保に努める。
- ・来館者数については、主催事業やテーマ展示の PR、資料の充実と併せて、新規利用者の開拓に向けた取組を検討していく必要がある。
- ・アンケートの回答数は少ないものの、駐車場の有料化後でも滞在時間に大きな変化は見られない。

■図書館協議会からの意見

- ・テーマ展示が奥にあるので、目にする人が少ないのではないかと。色々なテーマがあり、楽しめる。テーマ展示の存在を知らせるように、入り口に『今週のお知らせ』など工夫をしてはどうか。
- ・前の項目 4-①と合わせて、自己評価は A 評価を期待した。(図書館員の手腕が最も発揮され、自信を得られる項目)

- ・ 駐車場有料化による図書館滞在時間の心理的影響はかなり大きい。図書館での本の選びなど、2時間はすぐに過ぎる。時間切れで帰ってしまう結果を招く。中部館では是非、図書館専用の駐車場を確保すべきと考える。
- ・ 駐車場の有料化後でも滞在時間にアンケートでは大きな変化はみられないかもしれないですが、アンケートの「意見」にもあるように時間を気にしながらの滞在とそうでないのとではやはりこの項目に関しては課題がないとは言えないのではないか。
- ・ 利用時間と駐車場時間を考えると、ゆっくりとは出来ない。もっとテーブルがあるとよい。

基本方針 5 市民の活動・交流を通して、新たな出会いを発見できる図書館 ー活動支援機能

○評価項目 ① 多目的な活動を支える場所の提供

自己評価	C
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	B
	B
	C
	B
	C
	C

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：集会室の利用数	利用条件の整理	110	103
イ：図書館主催行事の開催数	イベント内容・対象の研究	26	30
ウ：学校との連携による受入れ数と研究発表場所の提供数	学校との連携を検討	25	17

○取組予定

集会室の利用は、第 1 集会室のみとなっているが、図書館関連ボランティア団体等が活用されるよう取り組む。

図書館主催行事は、PR に努め、イベント内容の工夫を行い開催する。

学校と連携した学習と研究成果を発表ができる場所の提供を行う。

図書館見学や職場体験などの受入れを行う。

○取組結果

- ・国スポ・障スポ開催による休館日の影響はあったが、図書館関係団体への集会室の貸出、おはなし会の開催により概ね目標値に近づけることができた。
- ・国スポ・障スポによる休館もあったが他の日程に振り分け、回数も増やすことができた。
- ・学校と連携した学習と研究発表場所の提供については、図書館見学や職場体験などの受入も積極的に行ったが令和 7 年度は学習成果の展示が無かったため、未達成となった。

○成果と課題

- ・おはなし会の開催においても、今まで参加されたことのない市民の来館につながるよう PR 等に工夫を凝らすとともに、リピーターの確保にも努める。
- ・ウ：学校との連携による受け入れや研究発表場所の提供については、引き続き、学校と協議の上で対応していきたい。

■図書館協議会からの意見

- ・図書館見学、職場体験の積極的な受け入れをありがとうございます。図書館教育（読書活動）に焦点を当てて、校内研究を進めている学校もある。

学校図書館との積極的な連携を図っていきたい。

- ・お話し会の開催される土曜日は、多くの来館者があるが、駐車場の制限がある中で、行事参加は難しく感じるのではないかと。入口で参加の呼びかけと、駐車料金が還元される事などをお知らせしてはどうか。
- ・図書館主体の「イ」を除いて評価を下回ったものの、こちらも古文書の指標と同様外部要因が大きいものであり、評価に迷った。取り組み結果の文面をみる限り、実際のところ「想定以下の成果」までいくか。今後もこの指標を用いるのであれば、学校との意思疎通のあり方など、改善を図る余地はあると感じた。
- ・学習船うみのこ、運航の成果と継続を参考にして、図書館を実体験できる取り組みを図って欲しい。
- ・「ア」、「イ」の成果により「B」でよいのではないかと考える。学校との連携のあり方については、まだまだ今後の課題であると思う。今回は図書館見学や職場体験の積極的な受け入れを行ったということによいと思う。
- ・多目的な活動となると難しい。公的な場所なので、企画を考えても実行出来るかどうか。

基本方針 5 市民の活動・交流を通して、新たな出会いを発見できる図書館 ー活動支援機能

○評価項目 ② 図書館に関わる各ボランティア団体との連携と協力

自己評価	B
------	---

外部評価	B
------	---

■各委員の評価

委員名	評価
	B
	B
	A
	B
	B
	B
	B
	B
	B

A：目標を完全に達成し、想定以上の成果があった。
 B：目標をおおむね達成し、想定どおりの成果があった。
 C：目標が達成できず、想定以下の成果であった。
 D：着手できなかった。

評価指標	取組の方向	R7 年度目標	R7 年度実績
ア：ボランティア団体との連携回数	各団体との意見交換の実施	5	5
イ：図書館ボランティア参加人数(延べ人数)	各団体の活動紹介に協力	100	106
ウ：地域文庫数	新規立ち上げ、継続活動への支援	13	12

○取組予定

館内掲示や広報ひこね・ホームページの掲載等により、各団体の活動について広く市民に PR する。

○取組結果

- ・ボランティア団体とは、おはなし会だけでなく、今後とも様々な分野において連携を図っていききたい。
- ・地域文庫連絡会に対し、活動支援は実施したが新たな文庫の開設には繋がらなかった。
- ・年間を通じて、各種おはなし会を計画的に開催していただくことができた。

○成果と課題

- ・ボランティア団体との連携を図りながら、図書館サービスの提供に努める。
- ・引き続き、地域文庫の活動を支援し、読書活動の推進を図っていく。
- ・各文庫が活動いただくことで、地域の読書活動の推進に繋がっている。

■図書館協議会からの意見

- ・新規の文庫連会員がない為、連絡会としての活動は小規模になっているが、各文庫の活動には、横のつながりを重視し、助け合いながら活動している。特に子ども達の近所にある本にふれる場所として、図書館の力を借りて存在を続けていきたいと思う。
- ・ほぼ「A」といい良いかと思う。地域文庫に具体的にどのような支援を行っておられるかによって、「ウ」を成果指標として良いかが変わってくると感じましたが、普段どのような支援を行っておられるか。

- ・ さらに連携・協力をすすめ、市民・図書館ともに成長していくことを期待する。
 - ・ いつも「おはなし会」の開催について広報にも掲載して頂いているので、ありがたく思う。
- 「おはなし会」のあり方は今までのままでよいのか、一度図書館と検討したい。